



農林水産省中国四国農政局
道前道後平野農業水利事業所

平林詩朗 所長

道前道後地域は瀬戸内海に面した、雨量の少ない地域であり、古くから農業用水が不足し、しばしば干ばつの被害を受けてきたことから、昭和30年代に面河ダム、幹線用水路等の基幹的水利施設が整備されました。

しかしながら、近年において農業情勢が大きく変貌する中で、水田の裏作用水や新規受益地区のかんがい用水など、道前地域の新たな用水確保の要望に応えるために志河川ダムが計画され、これまで建設を進めてきました。

工事は自然環境との調和に配慮しつつ、平成11年に付替道路工事を始め、16年に堤体基礎掘削工事に着手、17年12月14日からダムコンクリート打設を開始し、19年1月30日に打設を完了しています。

この間、兵藤委員長を代表とする志河川ダム特別委員会をはじめ、西条市・旧丹原町の皆様には多大なるご配慮、ご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

志河川ダムは、農家の皆様の熱意と、道前平野土地改良区をはじめ、多くの方々のご尽力により完成した道前地域全体の新たな水源です。この志河川の水により道前平野全体の農地が潤い、当地域の農業が更に発展していくことを念願しています。



道前平野土地改良区

越智市郎 理事長

長年要望していた志河川ダムの完成を迎えることができましたのは、ひとえに地元関係者、特に用地所有者のご理解・ご協力、並びに国・県・西条市をはじめとする関係機関のご指導・ご支援の賜であり、特に、志河川ダム特別委員会の委員の方々のご協力に心から感謝と敬意を表するとともに、工事関係者の献身的ご協力にもお礼申し上げます。

京都大学の名誉教授沢田先生が「農は国の大本にして水利は農の命脈なり、稲作の基本は水の管理にあり」と言われ、「文明が進むにつれて、水の存在がますます重要になる」とも強調されております。

近年、気象の変化が著しく用水確保が求められております。この志河川ダム完成により水田の裏作用水の確保と新規受益地区へのかんがい用水が確保され、清らかな恵みの水が道前平野地区に潤し、地域の振興に大きく貢献するものと確信しております。

完成後の志河川ダムは、国より管理委託を受けて当土地改良区が維持管理を行いますが、この貴重な水源を活用することが責務と思っております。また、本年度から実施されております「農地・水・環境保全向上対策」と同様、農業用水のもっている多面的機能の発揮の啓蒙に努め、農業の発展は無論、地域の向上に努力したい所存であります。

志河川ダムのデータ

ダム型式：重力式コンクリートダム
 堤 高：48.2m
 堤 頂 長：117.0m
 堤 体 積：60,000m³
 堤 頂 幅：4.8m
 堤頂標高：E L 138.2m
 満 水 位：E L 133.7m
 流域面積：17.2km²
 満水面積：0.1km²
 受益面積：4,123ha（かんがい面積 1,276ha）
 総貯水量：1,300,000m³
 有効貯水量：960,000m³
 利用貯水量：1,900,000m³
 利用回数：2.1回
 最大取水量：0.417m³/S（冬季 0.19m³/S）

▶平成19年10月31日、完成式の記念碑除幕



▶平成18年5月17日の定礎式



▶ダムが完成し、ダム下流側は人々が集える場としての環境整備が進められています。



▶平成19年1月30日、ダムコンクリートの最終打設式